

(1) 教育実習から学んだこと 〈1〉

「自由民権運動」の授業をつくる（高校 日本史）

法学部 4年 U.T

今年6月6日から17日までの2週間、母校である愛知県立N高等学校にて教育実習生として大変お世話になった。その全てを書き記すことはできないが、実習経験に基づき、本レポートでは主に教材研究と学習指導案作成、それに伴う授業展開及び学級集団の分析について述べていきたい。

◇教材研究と学習指導案作成

生徒の9割が大学進学を希望している性格上、次のような課題を設定し、教材研究、学習指導案作成に取り組んだ。

1つは大学教育への架け橋であるということ。生徒は1年生も含め大学進学を目指して入学してきているので、大学入試を意識しつつ、歴史的思考力を身に付けてもらおうと、専門性や現代日本の政治との関連にも留意した。具体的には、我が国に立憲体制が成立するまでの近代国家の形成過程について概観するため、講談社学術文庫版日本の歴史シリーズを何度か読み直した。

しかし、読書中に高校生向けの授業であることを思い出し、余り専門的過ぎてはいけないので、適宜教科書・図説に何が書かれているのか、どのポイントが押さえられているのか確認した。すると、武力闘争から言論闘争への政治の動きの変化が大切だと総合的に判断し、教材研究、指導案作成を行なった。

ただし、生徒指導部の先生に、今の高校生は幼稚な所が多くなっているという指摘を受けた。そこで日本史の授業でいかに生徒を眠らせず集中させるかを考え、事前に国立公文

書館（東京都千代田区）に行った。そこに明治政府の太政官が残した史料『民撰議院設立建白書』が所蔵されていたからである。マイクロフィッシュから該当する文献部分を複製させて頂いた。本物というわけではないが、実物教材を用意して生徒の関心を高めようと努めたわけである。

実際生徒の反応も良く、授業後にもう一度見たいという子、私の研究分野に興味を持ったとメッセージカードに書いた子もいた。

このように教材研究、学習指導案作成を再び考えてみると、2つの重要なことがわかる。1つは教師として何を伝えたいか問い続ける重要性である。日々授業をしていると、殊に日本史等歴史の授業の場合事項の並び立てに終始していることが多い。実際参観授業のなかにもそのような授業もあった。そこで大切なのは事項と事項との関係を生徒に掴ませることである。それが教師（社会科）の役割で、その為には何を伝えたいのか問い直し、教材研究を行なうことが大切だといえる。

もう1つは毎回の授業で最高の授業を目指す姿勢である。生徒にとってその授業は1回しかない。その65分（実習校時間）で最高の授業を行なうためには、先ず生徒がどんなことに興味があるのか理解に努める（生徒理解）、そのうえで専門的学問的理解を生徒に促すため、1伝えるなら100学ぶ教材研究が必須である。それを徹底したうえで授業の短い時間のなかで、教科書・図説を使い生徒と“学ぶ”自分を頭にイメージした。それを学習指導案としてアウトプットしていく。実際教壇

実習を行なう際は1話分の物語が頭に入っていて見なくても話せるようにしておく。そうすることで、生徒参加型の充実した授業展開を実現できるはずである。

◇授業展開 —自由民権運動—

「自由民権運動」というと読者は何を思い浮かべられるだろう。恐らく板垣退助の印象が強く断片的知識の場合も多いだろう。少し概説すると、江戸時代は武士政権による武断政治の時代であった。ところが欧米列強の接近に伴い、近代国家の形成が課題となると、薩摩・長州の雄藩のなかに新秩序形成の動きが起きた。こうして江戸幕府が倒れ、明治新政府による諸改革が始まる。ところが政府中枢と、土佐・肥前の間に対立が起こり、板垣らは自分の意見を政治に反映させようとした。そのために「国民」の「参政権」を求め、議会設置へと至る一連の流れが自由民権運動である。

授業展開の大まかな流れは不平士族の反乱で士族敗北→武力から言論による闘争へ→藩閥政府内に対立構造→事件により政府が議会開設を約束、となる。

授業展開で留意した点、工夫した点について見ていきたい。

まず内容面だが、自由民権運動は政治史の一節である。従って歴史的思考も勿論大切だが政治学的思考も重要と考える。そこで指導の際はストーリーの登場人物（アクター）同士の関係性に着目した。具体的には民権派が建白書・結社結成の運動展開→これに対して政府は条例制定で弾圧策を講じた、などである。

このように展開したのは、特定の政治現象（民権運動）が発生すると、政府等が何らかの対応策を講じるという政治的関係性を生徒に理解させたかったためである。実際実習当時エジプトを発端とする中東の民主化運動が、報道でも注目されていた。だから現在を読み解く意味で、少しは生徒の理解に貢献できた

と思う。

次に形式面だが、実は、1時間目で上述の史料「民撰議院設立の建白書」の複製（国立公文書館）を使用したこともあり、2時間目で何を使用するか悩んだ。そこで一度教科書・図説を見てみると、『新詳日本史』（浜島書店）の206頁に開拓使官有物払下げ事件について、東京横浜毎日新聞がスクープしたとある。そこで図書館のデータベースから当時の新聞紙面を探し出し印刷し、見やすく加工した同紙面を生徒に回覧した。

◇生徒の意欲を引き出すために

次に授業展開における生徒の学習意欲喚起について述べる。意欲というか関心を持ってもらいたい。そんな時は出来るかぎり相手に身近でわかりやすいこと、意外と思わせるようなインパクトが必要と考える。そこで私は次のような展開で工夫した。

ひとつのポイントは武力による闘争から、言論による闘争への転換である。そこで私は誰もがご存知ドラえもんのジャイアンを採り上げた。彼はのび太の家にリサイクルのチケットを売るよう毎度やって来る。仮にのび太が断るならジャイアンは何とというか、生徒に質問。すると「メタメタのギタギタにする」等と回答。そうだよねと同意してから少し考えてみると、これはジャイアンがリサイクルをやりたいという主張を通すため、「ぶん殴る」武力的行使をしているわけで、まさに武力闘争と話す。これをやめて話し合っただけというものが言論闘争で、こちらに転回した流れを紹介した。

もう1つのポイントは対立と新聞である。先に大隈と伊藤の議会開設をめぐる意見の違いを図解・記入してもらおう（杉田敦先生の講義「政治理論」参考）。そのうえで開拓使官有物払下事件を教科書・図説で確認。その際、生徒全員に挙手式で発問。（「中日新聞とって人」9割「朝日は」2人「読売」0人）。回

答を受けて図説に目を転じ、上述の新聞紙面
回覧。この時代になって新聞が人々の議論・
言論の場として登場したことも紹介した。

実は授業の1時間目にもイギリス人ブラッ
クによる「日新真事誌」紹介の際、新聞メデ
ィアに触れた。現在中東の民主化運動はツイ
ッター等のメディアで意見を共有した人たち
が参加している。けれどこの時代、新聞メデ
ィアで意見を共有し民権運動を展開していた
んだよ、という形だった。これは近年新聞を
教育に活用しようという動きがあったこと、
私自身メディアに興味があることからの取り
組みとして紹介しておいた。

◇反省、課題

さて、このように内容面、形式面双方を振
り返ってみると、良かったのは生徒の協力も
ありわかりやすく授業展開できたことである。
説明する際ただ論理的に述べるより、時には
民権派・政府を演じたり、大隈・伊藤を演じ
て教室を動き回ったのが、生徒の理解促進に
効果を発揮したと思われる。プリントの感想
欄にも気を遣ってくれたのか「教科担当の先
生よりもわかりやすく、いつも寝てしまう
のにずっと起きて聞けた」という少々複雑だ
が嬉しいコメントもあった。

一方課題と感じたのは、実際の教壇に立っ
た時に伝える量である。教科担当の先生はあ
れでいいんじゃないですかねと仰っていたが、
教頭先生は板書の量・テンポが遅い気がした
と話されていた。ただ余り増やすと生徒との
コミュニケーション（発問し過ぎとの意見も
あったが）が不足してしまう恐れがある。そ
れも含めて考えてみると、教えるだけでなく、
生徒と共に対話するなかで教員もまた学ばな
ければいけない、そういうやりがいのある仕
事だと改めて感じた。そのためにもどんなや
り取りを生徒とするか、授業展開だけでなく
日々の学校生活で考えておく必要があるだろ
う。

私が担当した HR クラスは当初なかなか話
さない生徒が多かった。というより話題が恋
愛テーマになると私自身話しづらいので…。
日々HR や昼休み、放課後、感想プリント、
特活を通じて距離を縮め、最終日には1人ひ
とりに手紙まで頂いた。これ程未熟な私を受
け入れてくれた実習校、優しいけれど少し天
然(?)な HR クラスに感謝し、この貴重な経
験を今後も大切にしていきたい。